

# 発見 しょうばら

自然豊かな庄原市には、県内最大級の巨樹があります。巨樹はその地域に根ざした文化や人々の暮らしを今日まで永永と見守り、地域とともに生き続けています。今月はこれら庄原市の巨樹を紹介します。

商工観光課観光交流係 ☎0824-73-1178



## 上高野山の乳下がりイチヨウ

このイチヨウは、胸高幹囲9.6m、樹高20mで、イチヨウとしては県内最大の巨樹で、樹齢1000年とも言われ県の天然記念物に指定されています。

中国が原産の裸子植物で、雌雄異株の落葉高木。雌株で果実(種子がギンナン)になります。多数の気根が乳房のように垂れ下がっていることから、この名がつけられました。

●樹名/イチヨウ(イチヨウ科) ●場所/高野町新市



## 法恩寺のキャラボク

このキャラボクは東城の法恩寺の山門の脇にあり、根周り周囲2.8m、樹高3.5mで、県内有数のキャラボクです。

キャラボクはイチイの変種と考えられ、本州の日本海側と朝鮮半島の亜高山帯に自生します。挿木ができるので、備後・備中地方では観賞用として広く庭に移植していますが、このような大木・古木になることは珍しく、市の天然記念物に指定されています。

●樹名/キャラボク(イチイ科) ●場所/東城町川西



## 熊野神社の老杉

比婆山御陵の遙拝所として古くから信仰を集めてきた熊野神社の社叢は、100本を越える大杉によって形成されています。胸高幹囲4m以上のものが55本を数え、中には樹齢1000年を超えるものがあるといわれ、信仰の歴史を物語っています。胸高幹囲5m以上の11本が「熊野神社の老杉」として広島県天然記念物に指定されています。

●樹名/スギ(スギ科)  
●場所/西城町熊野

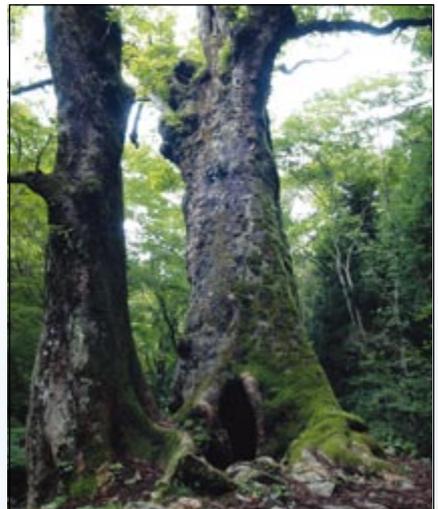


## 川北の大コブ

この樹は川北八幡神社の裏山にあり、根元に大きなコブのある県内最大のシラカシの巨樹で、「大よろコブ」としてか、参拝にも多く人が訪れるようです。

シラカシは、県の中中部地域に自生する常緑樹で、葉はアラカシよりも細長く、最近都市の緑化で植栽が多くなりました。材は建築、家具、薪炭などに利用され、シラカシの名は材が白いことからこの名が付けられました。

●樹名/シラカシ(ブナ科)  
●場所/川北町八幡



## 熊野の大トチ

根周り周囲12.2m、樹高30mで、根元から2本の巨幹に分かれている熊野の大トチは、中国地方では最大で、国の天然記念物に指定されています。

トチノキは北海道南部から九州北部まで分布し、湿度が高く水はけのよい土地を好むので、山地や河岸などの傾斜地に多く生育します。初夏の頃、美しい房状の白い花が上向きに咲き、秋に熟すクリに似た種子はアクを抜けば食べられます。

●樹名/トチノキ(トチノキ科)  
●場所/西城町熊野